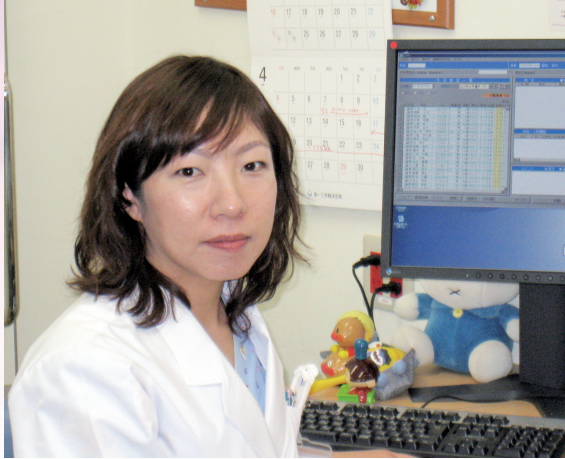


勤労者医療と地域医療の中核病院として、患者中心の安全で安心な質の高い医療を提供します。

診療科の紹介



形成外科

形成外科副部長 ふじ た さち よ 藤田幸代

平成12年 千葉大学医学部卒業 医学博士
13年 昭和大学形成外科学教室入局

専門医等 日本形成外科学会専門医

平成21年4月、渡辺前形成外科部長の異動により東京労災病院形成外科副部長として着任しました。形成外科は「先天性および後天性の身体外表の形、色の変化、すなわち醜状を対象とし、これを外科手技により形態（美容）解剖学的に正常（美形）にすることを手段とし、その目的は個人を社会に適応させるものである」と定義されています。治療としては保存的治療と外科的治療がありますが、症状、ご希望に応じて、相談しながら治療方針を決めていきます。

扱う疾患としては先天奇形、外傷、傷跡、腫瘍、あざや美容に関するものなど多岐にわたりますが、そのうちのいくつかをご紹介します。

対象疾患

1 先天奇形

・口唇口蓋裂 ・耳介変形 ・多指症 ・合指症 ・臍ヘルニア ・舌小帯短縮症

2 外傷

・顔面骨骨折（鼻骨、頬骨、眼窩底など） ・挫創 ・熱傷

3 瘢痕

・外傷、熱傷、手術後の瘢痕、瘢痕拘縮、肥厚性瘢痕、ケロイド

4 腫瘍

・粉瘤 ・脂肪腫 ・石灰化上皮腫 ・疣贅 ・血管腫
・母斑（母斑細胞性母斑、脂腺母斑など） ・異所性蒙古斑
・老人性色素斑 ・皮膚悪性腫瘍（SCC、基底細胞癌など）

5 潰瘍

・難治性潰瘍（糖尿病、血管障害に伴うものなど） ・褥瘡

6 その他

・眼瞼下垂 ・陥入爪、巻き爪 ・陥没乳頭

先天奇形

口唇口蓋裂、舌小帯短縮症、耳介変形をはじめ、多指症などの四肢の奇形、臍ヘルニアなどの体幹の奇形等です。



口唇口蓋裂



耳介変形 (埋没耳)



多指症



顔面挫創



熱傷



癩痕拘縮

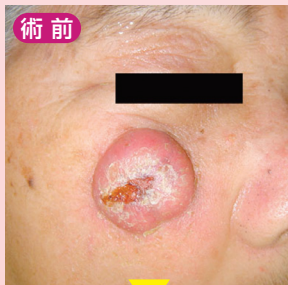
外傷

顔面骨の骨折、顔面軟部組織の損傷をはじめ切断指など手指の外傷、熱傷などがふくまれます。外傷後・術後の癩痕、ケロイドも扱っております。

皮膚腫瘍

黒子・粉瘤・脂肪腫・鶏眼・疣贅などの小さなできものから扁平上皮癌・悪性黒色腫などの皮膚癌も扱います。

あざ (太田母斑、血管腫) もここに含まれ、当科ではレーザーによる治療を行っております。



顔面腫瘍



血管腫



母斑細胞性母斑



異所性蒙古斑

老人性色素斑

上に挙げていない事柄でも、お気軽にご相談下さい。形成外科で治療を受けた方々が、笑顔で再び社会生活に復帰してゆく姿を見ることが、形成外科を専門とするわたしたちの最高の喜びです。

小さいお子さんの外科的治療の場合は、手術の間おとなしくしていただけないため、全身麻酔をかけての手術となることが多いですが、2泊3日で帰れることがほとんどです。

逆に、大人の方は局所麻酔で日帰りの手術が多いですが、大きな腫瘍や両側の眼瞼下垂（手術後腫れた場合に目が見えにくく危ない）などは入院をお勧めしています。

救急の患者さんも出来るだけ対応しています。特に顔の傷跡は人目につきやすく、傷が治った後も傷跡を気にされる方が多くいらっしゃいます。怪我をした最初の段階で、細い糸、細かい縫い方などで、できるだけ傷跡がきれいに治るように処置をします。

形成外科で扱う疾患は多数存在します。以

連携病院便

医療の町蒲田って？真の医療連携を目指して



ナグモ医院
院長 南雲 晃彦

十年ほど前のある時、黒田会長以下蒲田医師会の会議の後のこと「医業経営はますます厳しいね、不景気だから？いや病院に比べれば診療所はまだまだ、なんか策はないのか。」などと今も変わらぬ雑談の中で黒田先生が「ねえ、医療の町蒲田ってどう？」と言われ、全員キョトンとした表情でいると、「いやー、ギョウザの町があるんなら医療の町があってもいいんじゃないか、と思ってね。」「ギョウザの町？医療の町？わからん…。」

「いやー、ギョウザで有名なところがあるのなら、医療で有名な地域があったっていいじゃない。」「医療で有名って？それでどうなるんですか。何かメリットがありますか？」

「この地域は医療がしっかりしているから安心

して暮らせるんだ、と住民の方が思ってくれたらここに住みたい、と考える人が増える、結果、患者さんが増えて医業経営も安定化するんじゃないかな。」「一言で云えば情報開示だ。どこにどんな医療機関があって、何が得意で何が出来ないのかを住民にわかっていたら、さらに言えば地域内でおおよそすべての医療が賄えること、つまり地域で完結できることが安心して暮らせるまちになるのでは。」

まだ“地域完結型医療”などと誰も言わない頃の話です。以来蒲田医師会を含め大田区の三医師会が一丸となって地域完結型医療を目指して邁進してまいりました。

その中で東京労災病院とは9年前から病院側からのお申し出もあり当時の永田院長先生・吉田副院長を先頭に林先生・児島先生を初め多くのスタッフの方々の力で医療連携を強力に進めていただき、地域医療連携室の設置、専従スタッフの配置・拡充を続けていただき、現在では野村院長のもと、大田区のみならず城南地区いや東京の医療を担う基幹病院として隆盛を誇っているのは大変有り難くまた喜ばしい限りであります。これからもよろしく願います。

専門外来のお知らせ

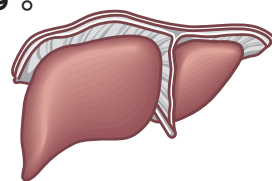
当院では、特定の病気や症状あるいは部位について、専門の医師が適切な医療を提供する専門外来を開設しております。その一部をご紹介します。

肝臓病外来

当院では、A型肝炎・B型肝炎・C型肝炎、慢性肝炎、肝硬変または肝癌について専門的な診療、指導、相談に応じています。

担当医 児島消化器内科部長

診察日 毎週**月**曜日 13時30分～

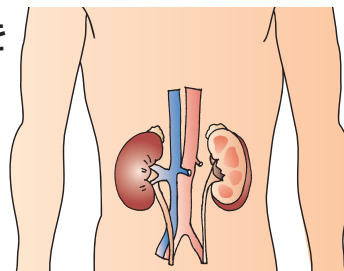


蛋白尿・高血圧外来

慢性腎臓病 (CKD) 対応の一環として腎生検適応を含めた諸検査、治療方針の決定をいたします。

担当医 内藤腎代謝内科部長

診察日 毎週**金**曜日 13時～



もの忘れ外来

認知症の初期診断を中心に専門外来を行っております。

担当医 新井神経内科副部長

診察日 毎週**火**曜日 13時30分～



各外来とも**完全予約制**となっておりますので、**予約に関するお問い合わせは、地域医療連携室**へご連絡ください。

東京労災病院地域医療連携室

TEL 03-3742-7129

FAX 03-3742-7314